



写真提供：NPO法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクト

茅葺き屋根が美しい、活動拠点の「金平家住宅」。メンバーで刈り取った茅の管理も行います。

茅葺き民家がつなぐ、温故知新のまちづくり

～NPO法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクト～

築130余年の茅葺き民家を 都市と農村の交流拠点として活用する

NPO 法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクトの活動について、メンバーのみなさんにお話を伺いました。

茅葺きの自宅を残したいという思いから

鳥取県中部、東伯郡琴浦町の成美地区にある農村地帯立子谷。豊かな自然に囲まれたこの場所にNPO 法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクトの活動拠点である金平家住宅があります。

かつてはこの地域にも当たり前存在していた茅葺き民家は、現在この立子谷地域で金平家住宅一軒のみとなり、管理の大変さや、人手不足などの理由から、県内では倉吉市より西側にはほとんど残っていません。管理者の金平さんは「茅葺き民家は農村景観になくてはならない‘シンボル’のようなもの。残さなければと思った」と言います。

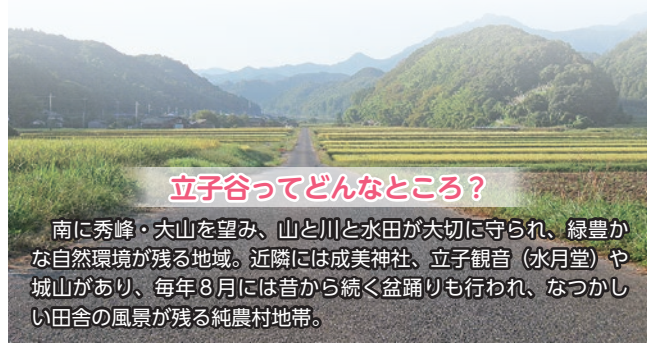
思いが強くなったきっかけは、ご両親からの建て替えの相談でした。「反対だ、残してくれと。定年になったら帰ってくるからと頼みましたね」と笑って話します。

長年、岡山で人工皮革の開発に携わってきた金平さん。都市の人工的な環境に矛盾を感じ、農村を大事にしたいと思うようになりました。そのためには、地域に拠点が必要と考え、茅葺きの自宅を拠点

に古い木造建築の良さを伝えながら、都市と農村の交流をしようと金平さんが中心となって平成31年4月、NPO 法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクト（以下、「プロジェクト」という）を立ち上げました。メンバーは約40名、主に地元の住民です。中には、自分で果物を作って直接販売まで手掛ける集落の若手農家や、自然栽培に詳しい方、通信分野で働く若者、大阪からのIターン移住者もいます。



NPO 法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクト
理事兼金平家住宅管理者
かねひろ ひろし
金平 坦さん



立子谷ってどんなところ？

南に秀峰・大山を望み、山と川と水田が大切に守られ、緑豊かな自然環境が残る地域。近隣には成美神社、立子観音（水月堂）や城山があり、毎年8月には昔から続く盆踊りも行われ、なつかしい田舎の風景が残る純農村地帯。

背中を押してくれた人たち

「アイデアはいろんな人からもらった」と金平さん。茅葺きの家を都市・農村交流の拠点にできないかと中部総合事務所に相談した際、「農家民宿の制度がある」と教えてもらったことを振り返ります。プロジェクトの理事長の北野さんと副理事長の足立さんとの出会いについても聞くと「それはもう、ええ人おらんかって、役場や公民館、もういろいろ聞いてまわりました。そうしたら、必ず名前が挙がるのは、このお二方でした」と笑います。「交流の基になるし、資金集めやいろんなことがスムーズにいくんじゃないか」とNPO法人の立ち上げを提案されたのは北野さんだそう。

令和元年11月には県の補助金やクラウドファンディング等も活用して改修し、昨年3月に農家民宿「たつこの掌^{しやう}」をオープン。しかし、オープンした矢先、コロナの影響で民宿事業が停止。それでも、農家民宿再開にむけて、立子谷の魅力を伝える体験活動の検討を重ね、令和3年4月から県内在住の方に限り民宿事業を再開しました。

地域の人とふれあえる場に

「農家民宿自体は全国各地にあるけど、うちは、体験して終わりではなく、NPOのメンバーと親密でいられる。地域の人と交流しながら、時間をもっとゆっくり、ゆったり過ごしていただきたい」と言います。「今はコロナで、交流とか出かけるとか、その価値観が否定されているのがつらいところですが」とも。

また、プロジェクトは接遇の経験がないメンバーがほとんど。それでも「宿泊することで、貴重な建物に触れながら、そこに広がる景色、人々の暮らしなどの良さを、時間をかけて学び感じ取ってもらいたい。農村の良さをわかる人が地元だけでなく、県内・県外にも増えていってくれたら」と、コロナ禍でできることを模索しつつも、今後の展開に胸をふくらませます。

国登録有形文化財の金平家住宅主屋^{しやおく}

金平家住宅主屋は、明治18年に建てられた伯耆地方の平野部における伝統的な農家建築。屋根は^{よせむつく}寄棟造り茅葺きで、内部に二列計五室を設け、表に座敷を配しています。

(とっとり文化財ナビから一部抜粋)

茅の葺き替えは、プロジェクトのメンバーで行っているほか、宿泊者が快適に過ごせる空間をつくるため、文化財の主屋とは別に、体験もできる調理場を整備されました。

参加者を公募して実施した

「三和土^{たたき}仕上げワークショップ」

農家民宿を改修するにあたって、令和元年の10月末に土間を仕上げるワークショップが、佐治左官による指導のもと行われました。SNS等で発信したところ、60名以上が集まりました。(★)

『三和土』とは

「^{たたき}三和土^{つち}」の略で、赤土・砂利などに消石灰とにがり^{しっくい}を混ぜて練り、塗ってたたき固めた素材。3種類の材料を混ぜ合わせることから「三和土」と書く。叩き漆喰ともいう。

江戸・明治時代の頃に用いられていたが、近年ではほとんど見るのができない工法。「たこ」と呼ばれる棒で土を叩き固める。

ワークショップの様子は
こちらから視聴できます。



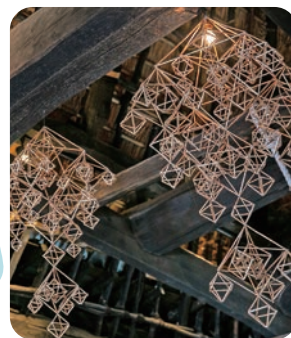
地元の素材を使用した装飾の一部をご紹介します

ヒンメリ

ヒンメリ (himmeli) とは、フィンランドの伝統的な装飾品。藁に糸をとおし、多面体を構成したものを繋ぎ合わせて吊るす飾り。

別名「光のモビール」。

たつこの掌には
特別サイズの
大きなヒンメリが！
茅や藁で作るそう
とっても素敵です！(★)



令和2年度には、コロナ禍の活動としてヒンメリ作りのワークショップも行われ、大好評だったそうです。

(★) …NPO 法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクト

活動について会員からのコメント



広報担当 やまさき 山崎みどりさん

NPO 立ち上げ時からの会員である、父づてに入会しました。金平家住宅で行われた「琴浦まちネットフォーラム」に参加したときに、県内外からたくさんの方が来ていて、「こんなすごいところだったんだ、ここ」って気付かされました。もともと地域おこしに興味があったので、自分が住んでいる地域で農家民宿という面白そうなことができれば、もう、やらなきゃ!みたいな感じでした。

プロジェクトでは、SNS、ホームページ等の広報を担当しています。自分の手で一から作り上げるのは勉強になるし、パソコン教室で働いているので、この活動が本業に生かせることもあって。ただ、同世代の人に「こういうことをするんだけど、どう?」と、活動の話をして、あまり興味を持ってもらえなくて。そこはちょっと、難しいなと思います。

大変なところはありますが、いろんな人と出会えるので楽しいです。

山崎さんみたいにITを使いこなす若い人がいると、心強いです。他にも、集落で梨を栽培する若手農家の大石さんという人もいて。民宿のパンフレットは彼が手配したんです。最近、この辺も様子が変わりつつあって、若い人がかえってきているところもあるのでSNS等で声かけをして、いろんな方に来てもらえると、若い人や子どもたちにも良い影響を与えるんじゃないかなと思っています。



きたの ひろふみ
理事長 北野博堂さん



あだち こういち
副理事長 足立康一さん

今までは、農業が100%みたいな生活だったけど、これからは農業半分、こういう活動も半分みたいな、そういう具合になるといいかな。少しずつ人が来て、その人がまた違う人を連れてきてくれたらいいなあと。地域の人じゃなくても、活動のファンになってくれて、手伝ってくれる人が増えていったらいいと思います。



とれたて×できたて
「たて・たて」料理



建設時の技法を
そのまま活かした、

茅 葺きの民家



地 元で採れた食材を活かした、
伝統的な調理法で一緒に作る料理



五 感を使った、
非日常の体験

豆腐作りや梨の袋かけ
など約16種類の田舎体験
メニュー

〒689-2532 東伯郡琴浦町太一垣179 営業日：金・土・日曜（宿泊可能日）TEL：0858-55-0755

当面の間、農家民宿は、鳥取県内の方に限り宿泊可能（令和3年6月時点） 写真提供：NPO 法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクト

「NPO 法人琴浦立子谷ふるさとプロジェクト」会員募集！

私たちと共にプロジェクトを盛り上げてくださる方を募集しています。町外・県外の方も大歓迎！

連絡先



KOTOURA TATSUKODANI
FURUSATO PROJECT

ホームページ
<https://tatsukodani.com/>
フェイスブック
<https://www.facebook.com/tatsukodani.kotoura/>



ホームページ



フェイスブック